

令和7年度 社協地域福祉研修会 回答一覧

質問内容	回答者	回答内容
・近所に住んでいる素性のわからない状況での付き合い方が難しい。 近所を知る方法、その後の付き合い方のヒントについての質問ではないでしょうか？	新井先生	集合住宅なのか、戸建てがメインなのか、戸建てとアパート等の混在地域なのか、いろいろ場所によっても付き合い方には違いがありそうです。共通するのは、まずは挨拶をしながら日常的な会話をすること、例えば天気や季節の話、目に映った木々やお花の話などからするのはいかがでしょうか。徐々に信頼関係が結ばれていけば、お互いの「素性」も徐々に理解しあえるのではないかと思います。肝心なのは、信頼関係を結ぶには、こちら側から自分や家族の話など、自己開示をしていかないと、相手もしてもらえないということです。相手のことを知るには、自分のことを知ってもらわないと、相応の情報は得られません。もちろん初対面や関係が浅い中で自分や家族のことを話すのは気が引けると思いますが、徐々にこちら側から心を開いて、ご近所さんと関わることが重要かもしれません。
・初対面との人とコミュニケーションの取り方は		
・近年では人員不足によって必要なサービスを受けられない事例が発生している点について、どうしたら解決できるのか？	新井先生	ご質問が社会保障政策全般のことを指していると理解しましたので、あくまでも私の政治信条も含めた回答になることご了承ください。もしも趣旨が違っていましたらすみません。 福祉や介護サービスに対する人員不足は、一つは人口減少、一つは福祉介護などの職種の人気さがあります。前者は第2次ベビーブーム世代が就職氷河期やその後の経済低迷期と重なって家族を持ちづらくなったり、価値観の変動、圧倒的な少子化対策の遅れに起因しています。「あと5年が少子化対策の正念場」などと言われていますが、保育や学童、子育て費用の負担軽減などの子育て支援サービスのみならず、学校教員の負担軽減策などが後手後手になっている現状を鑑みると、私は悲観的にとらえていますし、その点歴代の政策に責任があると思います。 そんな状況の中で、福祉や介護サービスの人材を豊かにするためには、まずは、公定価格であることの多い福祉・介護人材に対する費用に国がもう少しお金をかけて給与の底上げをし、現在蔓延している「福祉や介護は給与が低い」という印象を払拭することが必要です。また一方で、すでに外国人人材が福祉現場でたくさん働いており、そう言った方にとっても魅力的な給与水準や職場づくりをする、それを国や自治体がしっかりサポートする体制が大切だと思います。単なる「労働力の確保」のために外国人人材を「安く」働いていただくという趣旨では、いずれ破綻します。魅力ある仕事と給与水準を、国民的合意の中で形成していくといけません。 以上、解決策として大きな話をしてしまいましたが、身近な取り組みとしては、例えば、介護保険であれば、「保険料を払っているのに、サービスが利用できないのはおかしいじゃないか」と、保険者にしっかりと伝えることが大切です。保険者にはサービスの基盤を整備する責任がありますし、国や県もそれを支援する責任があります。介護保険制度であれば被保険者である40歳以上の我々が、障害福祉サービスや保育サービスであれば、納税者である我々が、自治体や政府に対してしっかりと声をあげたり、政治選択をすることをしない限り、状況は変化しません。正論すぎますが、まずはそれを基本に考えることが、大切だと思います。
・地域のちょっとした困り事を解決するための組織（どんなものがあるか）はあるのか？	社協	社協では、社協地域支え合い事業「思いやりの輪」で、高齢者や障がい者、産前産後の方に対し、日常生活の範囲での「掃除」「買い物」「調理」等の支援をしています。 また、地域によっては、自治会・町内会や元民生委員の方を中心に組織した“ちょっとした困りごと”へのお手伝いをしているところもあります。
・次の世代を育てるための具体的な方法は？	新井先生	今回の講演は具体的ではなかったかもしれません、途中でお伝えした中学生の作文が私は印象的で、そこに多くが表れているような気がします。まずは、困っている状況にある人に声をかけること、その困りごとに耳を傾けることです。その行為がまずないと始まりません。そのうえで、そのような他者が人を支える、助ける、という姿を、何らかの形で積極的に様々な年代に伝えることが大切かと思います。市や社協さんが広報誌などに取り上げてくれるかもしれませんし、家庭では大人が子どもに対して、学校で先生が子どもに対して、その記事を子どもに伝えるかもしれません（そのような働きかけをしてもらえるような仕掛けを、行政や社協さんはする必要がありますが）。どのような大人の姿から、もう少し若い世代の大人が学び、子どもも影響を受け、学ぶ…こういう循環にしか、「次世代を育てる方法」はないのではないかでしょうか。 広報に関しては、例えば桶川市の川田谷地区では、地区単位で広報誌を作成し、地区内の支えあいの活動も含めて記事にして共有しています。
・見守りされる方の行動日程が不明	新井先生	ご本人は「見守られている」とわかっているのであれば、差しさわりのない範囲内で聞いてみてもいいかもしれません。また、事細かに行動日程を知るというよりも、例えば、「旅行に行くときは一言教えてね。ずっと雨戸閉まっているとびっくりしちゃうから」などの声掛けをするなども大切かもしれません。「見守られている」とわかっておらず、そういうのが難しい場合は、できる範囲の見守りでいいかと思います。雨戸、電気、郵便物などで、安否を確認するなどのことが考えられます。
・北本のたすけ隊は、どのようなメンバーでできたのですか？	新井先生	ボランティア講座を受講した人同士がつながり、社協職員によりバックアップをいただき結成されました。現在も社協の方と逐次連絡調整しつつ、ニーズの受付から活動日の調整等を行っています。
・どうやって具体的に社会福祉に何ら関心が無い、地域活動を避けていく人にアプローチし担い手になってもらうのか？そのテクニック、技術が知りたい。	新井先生	何よりも、活動している方が生き生きとやっていること、その喜びや魅力を伝えていただくことが大切かと思います。それを踏まえて、活動する際に少し声掛けしてみるなど。「活動をしてみたいけれど、きっかけがなかなかつかめなかった」という方は案外多いと思います。また、すぐにご理解いただかなくても、徐々に理解していただくこともあると思います。簡単ではないことは重々理解していますが、地道にやっていただくほかありません。

令和7年度 社協地域福祉研修会 回答一覧

質問内容	回答者	回答内容
・自治会の社会的使命とは？	新井先生	自治会は、いわゆる使命に基づき組織される非営利組織という面もありますが、どちらかというと「コミュニティ」という、同じ地域に住む者同士の親睦と互助、必要に応じた行政への意見提示、などがその役割かと思います。「社会的使命」というと、社会的な合意がとられている印象となりますが、加入率が減っている現在、社会的合意は得られていないでしょ。「同じ地域に住む者同士の親睦と互助、行政への提案」は、本来人が人と同じエリアで住むにあたって自然に必要なことだと思いますが、加入率の低下は、そのことに対する理解不足や、現在の組織の中でその本質に付随する部分が大きく見えてしまい、加入の必要性を感じない、もしくは加入すると負担感が大きくなる、ということが要因かと思います。
・自己主張が強くなり、お互い様が通用しなくなっている。どのように対応したらよいのか分からず。	新井先生	自己主張が強くなった感じるのは、支援が必要な人のほうでしょうか。それとも、支援を行う人など一般の人でしょうか。 「支援が必要な人」が自分主張が強くなっている、という面でいえば、様々な背景から人間関係の形成に困難を抱えた結果、そのような状態になっている場合が多いと考えられます。支援を行う上で目に余るようでしたら、社会福祉協議会や市役所担当部署などにも相談しながら、一緒に関わっていただくのがいいかと思います。 支援を行う人などの一般的な地域の方、ということであります、それによって支援を行う人があまりおらず困っている、ということであれば…。難しい問題ですが、皆さんの支えあいの活動を見てもらい、その大きさを理解してもらうことは方策はないと思います。すぐに理解してもらえるとも限りませんし、理解してもらえないかもしれません。ただ、その取り組みなしには、事態の打開にも結び付かないかと思います。
・既に「詰み」の状況で何から手をつけてよいか分からず。	社協 ・ 新井先生	せひ一度、社会福祉協議会にご相談ください。 地域課題は複雑かつ多様化していますので、一朝一夕には解決できることは少ないとは思いますが、社会福祉協議会の職員と一緒に考え、進めていただければと思います
・有償ボランティアの単価はどのように決めるのか？時間なのか？	新井先生	北本市の「たすけっこ」の場合、1時間の活動にあたり活動費として500円をいただいているが、ボランティア個人にその金額が行くわけではなく、会の活動費（掃除用具の購入など）に充てられています。地域の他の有償ボランティアの状況、活動の内容を踏まえて、会それぞれが単価設定していくと思いますが、利用する方の支払い能力の状況も視野に入れながら、決めることが必要かと思います。
・社会福祉協議会として、次の世代を対象としての発信はあるのでしょうか？	社協	児童や生徒に向けては、福祉教育で車イス体験や高齢者疑似体験等を実施する中で、お互いを理解する共生社会の理解促進を図っています。また、福祉の入口・きっかけづくりとして、夏休みの長期休みを活用した“夏のボランティア体験プログラム”を通じて、地域活動に関心が持てるような事業を実施しています。
・地域の中で人付き合いや隣人との関りが薄れてきている。周囲への無関心、関りたくないといった風潮がある時です。地域の子どもたちを地域で見守る育てるという意識も薄れているような気がします。大人は、どういった取組みが出来るのでしょうか？	新井先生	例えば、鴻巣でも子ども食堂などが開かれていますが、一つの目に見える取り組みとして、「子どもの居場所を作る」ということがあると思います。放課後や長期休暇などで学童保育などを利用していない子供は、きょうだいも少なくなく、地域に子供が少ないなどの状況下において、学校以外で子ども同士や子どもと大人が関わりあったりする場面がほほない状況です。そのような子どものための場所を作る試みが、いろいろな地域で行われています。また、そこに親も巻き込んでいくことも必要かもしれません。無関心な親も多いと思いますが、コミュニケーションをとり、できる範囲の何らかの役割を与えて、地域と一緒に取り組むこと、その喜びを感じられるような取り組みができるといいかと思います。
・有償ボランティア団体とは、何なのでしょうか？メリットとデメリット	社協 ・ 新井先生	社協で行う有償ボランティア活動は、社協地域支え合い事業「思いやりの輪」の協力会員、川里地域における配食ボランティア、県社協から受託したあんしんサポートねつの生活支援員等が挙げられます。 有償ボランティアとは、ボランティア活動者が活動に係る経費をすべて持ち出すのではなく、利用する人にも負担してもらうという考え方・ボランティアのカタチです。従来はボランティアというお金を取りたいのが美德みたいな風潮がありました、持続性という観点からも、有償ボランティアの形は広がっています。メリットは、持続性や、利用する側も「タダで申し訳ない」という気持ちが軽減されて利用しやすくなる、などがあります。デメリットとしては、支払い能力が難しい人にとって利用しづらくなる点もあると思います。その点は、社協さんなどと相談しながら、利用料の線引きや補助などを検討してもいいかと思います。
・助けが必要な時、外部から見えるような物 黄色いハンカチのような物でしょうか？	新井先生	日本の他の都道府県のある地域では、逆に、元気な時に目印を掲げる、みたいな活動をしているところがあると聞いたことがあります。ただ、昨今は独居高齢者や体の不自由な方がいるという目印は、犯罪に巻き込まれやすくなってしまうかもしれないというリスクがあります。できるだけ、信頼のにおける人同士の顔と顔の見える関係性を通じた見守り、支えあいを目指すことが必要なのではないかと思います。
・個人情報にどこまで入りこめるのか？具体的に	新井先生	「プライバシー」や「個人情報」という言葉や考え方には誤解されがちですが、「人のことにはむやみに立ち入らない」という意味ではありません。ご本人がもし、何らかの支援を「求めている」のであれば、その求めに応じて適切な支援機関につないでいただきたり、ちょっとした支援ですぐにできることであれば、ご近所の縁でやっていたいと思います。ご本人が支援を求めていても、「ちょっとこのままでは本人も大変だし、周りも心配である」ということであれば、遠慮なく社会福祉協議会や地域包括支援センターなどにお話ください。
・独居世帯あるいは空き家が増加している。プライバシーもあるので、あまり首を入れられない場合がある。対処は？		「プライバシーを守っていない」「個人情報におろそかだ」とは、このようなご家庭の状況を、関係のない方や、ご本人にとって不利益となるような方に対して、むやみやたらに、噂話のようにお話しすることを言います。ご本人、地域の方も安心して暮らすために必要な情報提供や共有は、「プライバシーの侵害」や「個人情報の粗末な扱い」とは言えません。
・見守りをする者、される者の関係をどうとるのか？どこまで生活に入ってよいのか？		

令和7年度 社協地域福祉研修会 回答一覧

質問内容	回答者	回答内容
<p>・民生委員の枠と見守り員の枠がありますが、連携・協働が今のところありません。 どうしたら連携・協働が出来ますか？</p>	社協 ・ 新井 先生	<p>民生委員は市、社協福祉見守り員は社協と異なる組織に属しています。見守り活動を行っていく上では両者の連携は必要不可欠であると認識しています。個人情報が壁となっているようであれば、見守りを希望する方からは、同意書を取り交わしており共有することは可能です。また、支部社協によつては、地区懇談会や支部福祉委員会を開催、自治会・町内会においても、民生委員と社協福祉見守り員が集まり活動における共有がされています。</p> <p>連携・協働の際に最も大切なのは、「自分が与えられた役割だけで、地域の課題を解決するには限界がある」という自覚をすべての人がすることです。この「限界性」を踏まえれば、他の方と協力することは必然ですし、実際にそうしないと解決できないと思います。また、役割が重なっている部分は、できる範囲で両者が率先して担う姿勢を示すこと、そしてお互いの活動のよかつたことを評価して伝え、ねぎらいあうことも大切です。民生委員さんも、見守り員さんも、そのような認識を持つことができるよう、社協さんからお伝えいただいたり、研修などを通じて理解を深めることが大切です。</p>
<p>①地域活動や福祉活動に共感を得られるには、どういったことが必要か、活動の輪を地域の人達に広げるには何が必要か教えていただけますか？</p>	新井 先生	<p>これらに共通するのは、取り組みの「共感」をどのようにもたらすか、広めるか、ということや、その事例を知りたい、ということだと思います。</p> <p>まずは、現在の取り組みの内容などについて、写真や記録などをぜひとっていただきたいと思いました。その内容を、社協さんにも協力していただきながら、広報誌に掲載していただくことや、何かチラシにまとめていただくなどして、地域内や市内に共有していただいたらどうでしょうか。</p> <p>いわゆる、「先進事例」や、「素晴らしい事例」も大切ですが、鴻巣市内の身近な事例などのほうが、「自分たちもできるかも」という感覚になるのかなと思います。</p> <p>他地域の取り組み方や、進めていく段階での質問等については、社協さんが相談に乗っていただけると思います。</p>
<p>②地域社会が共感を持って支え合いできる身近な具体的な方策やすぐに活用できる資材、アイディアの提供</p>		
<p>③見守り（方法）の具体例、効果的に実施しているコミュニティの成功例</p>		
<p>④地域住民との交流のしかた等を詳しく</p>		